小型特殊自動車

ELL802

取扱説明書

⚠ 警　告

この説明書を読んで理解するまでは、本製品の運転および保守・点検を行わないでください。

この説明書は、本製品の運転または保守・点検を行う場合、いつでも調べられるように大切に保管してください。

3728 6202 002

株式会社 筑水キャニコム

ユーザーの皆様へ

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。
ご使用になる前に、この「取扱説明書」をよくお読みいただいて、正しい取り扱いをしてください。

⚠ 警　告

本製品には、潜在する危険があることを知らなければなりません。したがって、本製品の運転および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。

⚠ 警　告

本製品を改造して使用しないでください。また、本体の安全カバー等を取外して運転しないでください。重大な事故の原因となります。

注　　記

本製品は市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。（交付申請の方法については、本書第11章の「小型特殊自動車登録申請の手引き」を参照してください）
なお、公道運転時には、小型特殊自動車を運転することができる免許（小型特殊免許、普通免許、自動二輪免許なご）が必要です。運転時は、必ず免許証を携帯してください。

目　　次

7. 保守(お手入れ) 21

＜保証書＞

本書の巻末に添付

※　本機の取扱説明を受けた後に、受領証と共にお受け取りください。

＜付　録＞

「エンジン取扱説明書」（工具袋に同封）

※　本書と併せて必ずお読みください。

1.　はじめに

1.1　本書の目的について

本書の目的は、本製品について、正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために詳しい情報を提供することです。
また、本書は、はじめてこの製品を使用される方を対象として制作しています。

1.2　本書の構成について

本書では以下の章に分けて情報を記載しています。

1. はじめに

   この章では、本書の目的、構成および本書で使用している警告用語について説明しています。
   また、本製品に貼付してある警告ラベルについても記載しています。

2. 保証とアフターサービスについて

   この章では、本製品の保証およびアフターサービスに関する事項を記載しています。

3. 安全運転・作業のための心得

   この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。

4. 各部の名称とはたらき

   この章では、各部の名称とはたらきについて説明しています。

5. 製品仕様

   この章では、本製品の仕様について記載しています。また、工具袋の明細についても記載しています。

6. 運転と操作

   この章では、運転前の準備、運転手順および操作方法について説明しています。

7. 保守（お手入れ）

   この章では、定期点検、給油、給脂、注油、給水、清掃、調整および使用後のお手入れに関する情報を記載しています。

8. 格納（長期保管）

   この章では、格納（長期保管）に関する情報を記載しています。

9. 不具合発生時の処置

   この章では、不具合が発生した場合の処置について記載しています。

10. 本機の移送および本機での移送

    この章では、本機を移送する場合の方法と注意事項について説明しています。
    また、本機に他の機械を積んで移送する場合の注意事項についても説明しています。

11. 小型特殊自動車登録申請の手引き

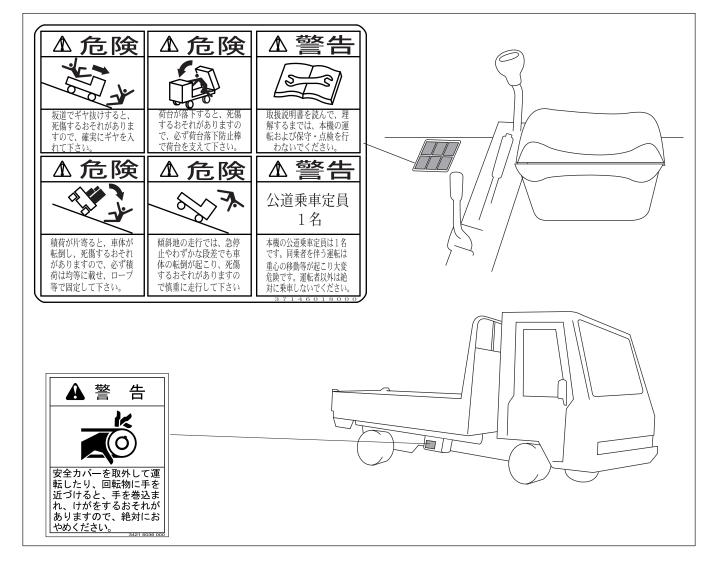
    この章では、小型特殊自動車登録申請に関する情報を記載しています。

1.3 本書の警告用語について

本書では、危険度の高さ(または事故の大きさ)にしたがって、警告用語を次の4段階に分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容(指示)に従ってください。

警告用語	意　味
⚠危　険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う場合に使用されます。
⚠警　告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重傷を負う可能性のある場合に使用されます。
⚠注　意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
注　記	とくに注意を促したり、強調したい情報について使用されます。

1.4 本製品に貼付してある警告ラベルについて

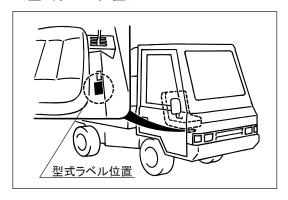
本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。はがれたり、見えにくくなった場合には、ラベル下の部品番号にて販売店へ注文し、新たに貼付してください。

2. 保証とアフターサービスについて

保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

アフターサービスについて

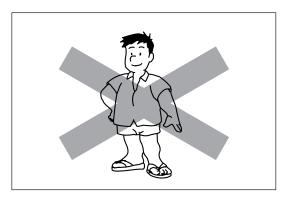
ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターにお気軽にご相談ください。
その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。（搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の第5章「製品仕様」を参照してください。┤ 10ページ）

＜型式ラベル位置＞

＜型式ラベル＞

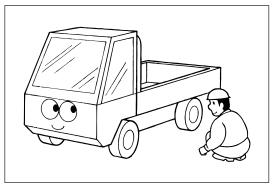
補修用部品の供給年限（期間）について

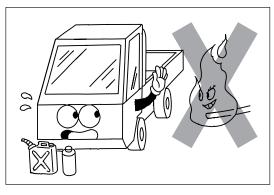
この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後7年とします。

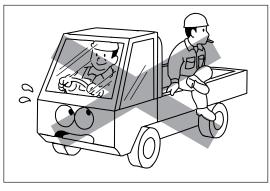
3. 安全運転･作業のための心得

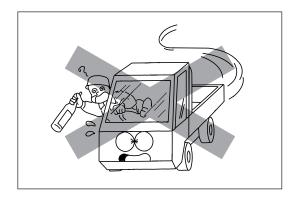
この章では、運転時または作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。本章以外で記載している各章の安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心掛けてください。

運転前の心得

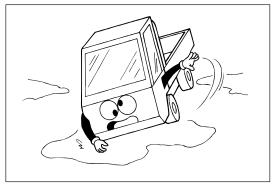
 正しい服装の励行

運転･作業にふさわしい服を着用し、軽装やサンダル履き等で運転･作業をしないでください。

⚠ 始業点検の励行

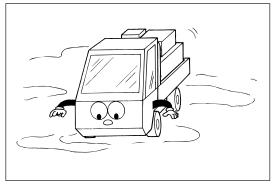
運転の前に始業点検を必ず励行し、異常箇所は直ちに補修してください。

 火気厳禁

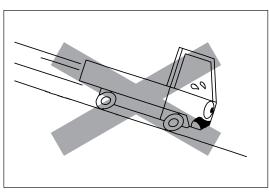
燃料、油脂の取扱い時は、絶対に火気（タバコの火など）を近付けないでください。また、バッテリの充電中やエンジンの整備時にも火気には十分注意して作業をしてください。

 同乗禁止

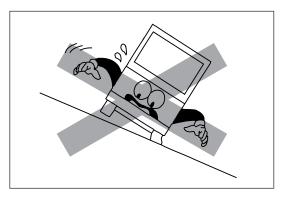
本製品は一人乗りです。同乗者を伴う運転は、重心の移動等が起こり大変危険です。運転者以外は絶対に乗せないでください。

⚠ 無謀運転禁止

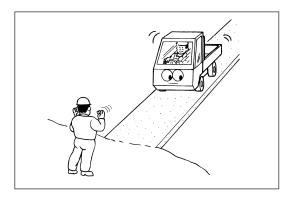
飲酒をして運転したり、体調不良時に無理に運転をすると大変危険です。絶対におやめください。
また、本製品の運転に適さない若年者の運転も絶対におやめください。

走行時の心得

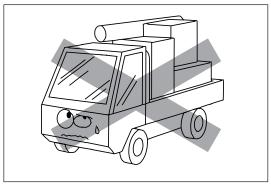
⚠ 急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止

急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。

 安全速度遵守

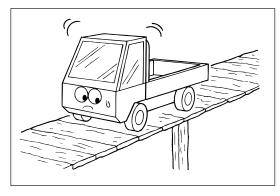
走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。
また公道を走行する場合は、交通状況に応じた適切な速度で走行してください。

 下り坂ではエンジンブレーキを

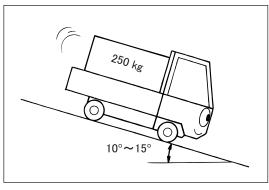
下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、エンジンブレーキを必ず使用して減速を行ってください（4輪駆動に切換えると、さらに効果的にエンジンブレーキを得ることができます）。フットブレーキを使用しすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

 斜面での横断禁止

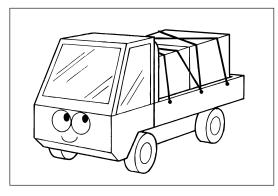
傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると、転倒のおそれがあり危険です。

危険な場所では誘導者の指示に従う

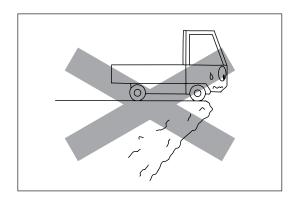
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

積載時の心得

過積載禁止

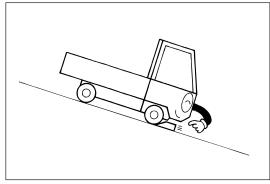
本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。本機は道路交通法により、積載量は500kgまでと限定されています。

制限重量に注意

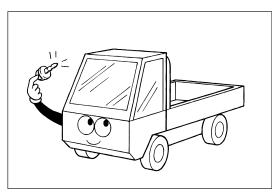
木橋等を渡る時は、本製品の機械重量と積載量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。

傾斜地での積載量に注意

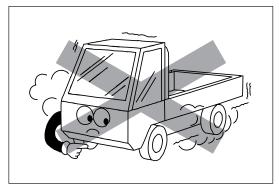
10°～15°の傾斜地では、積載量を250kg以下にして走行してください。15°を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転をしてください。

積み荷は正しく載せる

積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するよう心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

駐車時の心得

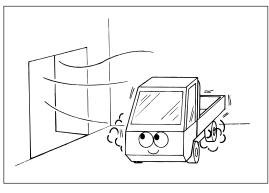
 危険な場所での駐停車禁止

駐停車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。

 坂道での輪止め励行

坂道での駐車は避けてください。やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、変速ギヤを前進または後進1速に入れた後、輪止めをしてください。

 駐車時の安全確認

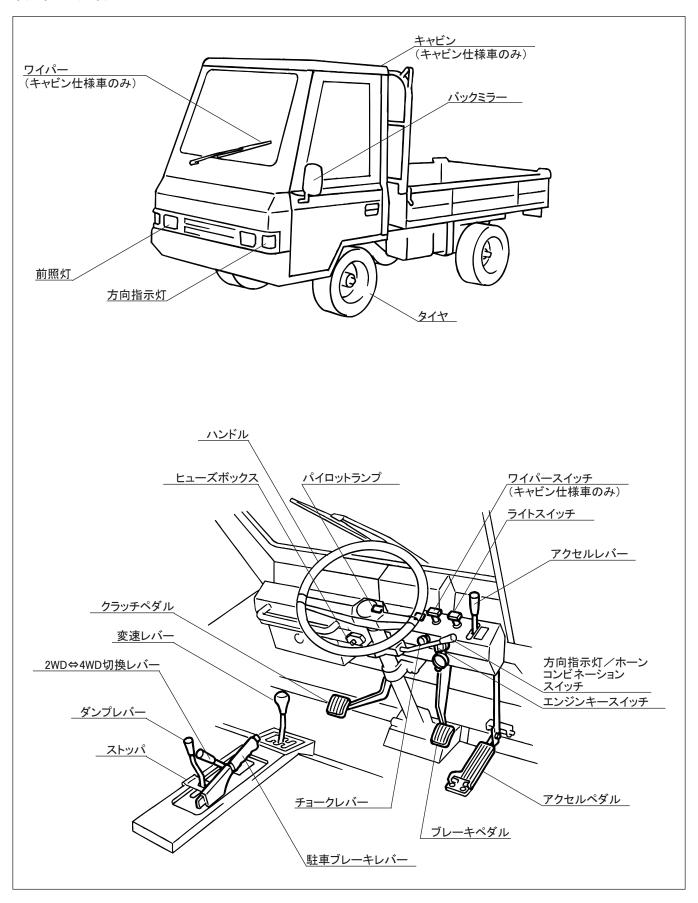
駐車時は、駐車ブレーキを必ずかけ、エンジン停止を励行してください。
また、キーを忘れずに抜いてください。

整備時の心得

 エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は整備を行わないでください。
必ずエンジンを停止してから整備をしてください。

⚠ 換気に注意

室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

4. 各部の名称とはたらき

各部の名称

各部のはたらき

- 変速レバー .... 走行速度の選択に使用します。
  変速はクラッチペダルを踏み込み、車体が停止した状態で行ってください。
  ※前進3、4速は走行中でも変速可能です。
- ダンプレバー .... 荷台の「上昇」、「下降」を行う時に使用します。
- アクセルペダル .... エンジン回転数の増減を行います。
- アクセルレバー .... エンジン回転数の増減を行い、一定回転数を保持します。
- クラッチペダル .... エンジンからトランスミッションへの動力を断続させます。
  クラッチペダルを踏み込むとクラッチが「切」の状態になります。
- ブレーキペダル .... 車体の停止、又は減速を行う時に使用します。
- 駐車ブレーキレバー .... 車体を確実に駐車させます。
  レバーを引くとブレーキがかかります。解除する時は、レバーを軽く引き上げ先端のボタンを押して下へ戻します。
- ライトスイッチ .... スイッチを引くと前照灯が点灯します。
- エンジンキースイッチ .... エンジンを始動および停止させます。
- 方向指示灯／ホーン .... 方向指示灯およびホーンを作動させるのに使用します。
  コンビネーションスイッチ
- パイロットランプ .... 方向指示灯と連動してランプが点滅します。
- チョークレバー .... レバーを引くとチョーク弁が閉じ、戻すと開きます。エンジン始動時に引っ張り、始動後戻します。
- ワイパースイッチ .... ワイパーを作動させるのに使用します。
  （キャビン仕様車のみ）
- 2WD⇔4WD切替レバー .... 後輪駆動（2WD）4輪駆動（4WD）の切替時に使用します。

5. 製品仕様

5.1 本製品の仕様

注　記

本製品の仕様を理解した上で、正しく本製品を使用してください。

名称・型式				ELL802	
				M	MU
機械質量			kg	530	570
最大作業能力			kN (kgf)	4.90 (500)	
機械寸法	全長		mm	3315	
	全幅		mm	1185	
	全高		mm	1695	
	ホイールベース		mm	1700	
	トレッド		mm	前 915/後 880	
	最低地上高		mm	155	
	床面高さ		mm	660	
荷箱寸法	荷箱内側寸法	長さ	mm	1845	
		幅	mm	1080	
		高さ	mm	230	
エンジン	名称			三菱 GB290	
	形式			空冷4サイクルガソリン	
	シリンダ(内径×行程)		mm	80.0×59.0	
	総排気量		cm^3 (cc)	296	
	最大出力		kW(PS)/rpm	5.8 (8.0)/2000	
	連続定格出力		kW(PS)/rpm	4.4 (6.0)/1800	
	最大トルク		N·m(kgf·m)/rpm	35.3/1400 (3.6/1400)	
	始動方式			セルフスタータ式	
	使用燃料			自動車用無鉛ガソリン	
	燃料消費率		g/kW·h (g/PS·h)	530 (390)	
	燃料タンク容量		ℓ	16	
	潤滑油容量		ℓ	1.0	
	バッテリ形式			40B19R	
	バッテリ電圧		V	12	
	バッテリ5時間率容量		Ah	28	
	点火方式			電子点火	
	点火プラグ品番			BP5ES W16EP N11YC	

<table>
<tr><td colspan="5" rowspan="2">名称・型式</td><td colspan="2">ELL802</td></tr>
<tr><td>M</td><td>MU</td></tr>
<tr><td rowspan="8">走行性能</td><td rowspan="6">走行速度</td><td rowspan="4">前進</td><td>1　速</td><td>km/h</td><td colspan="2">2.7</td></tr>
<tr><td>2　速</td><td>km/h</td><td colspan="2">4.8</td></tr>
<tr><td>3　速</td><td>km/h</td><td colspan="2">9.5</td></tr>
<tr><td>4　速</td><td>km/h</td><td colspan="2">14.3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">後進</td><td>1　速</td><td>km/h</td><td colspan="2">2.7</td></tr>
<tr><td>2　速</td><td>km/h</td><td colspan="2">4.8</td></tr>
<tr><td colspan="3">最小回転半径</td><td>m</td><td colspan="2">2.95</td></tr>
<tr><td colspan="3">登坂能力</td><td>度</td><td colspan="2">25</td></tr>
<tr><td colspan="4">トランスミッション油量</td><td>ℓ</td><td colspan="2">2.7</td></tr>
<tr><td colspan="4">ディファレンシャル(デフ)油量</td><td>ℓ</td><td colspan="2">0.7</td></tr>
<tr><td rowspan="5">動力伝達装置</td><td colspan="3">クラッチ形式</td><td></td><td colspan="2">乾式多板式</td></tr>
<tr><td colspan="3">主変速形式</td><td></td><td colspan="2">選択噛合式、常時噛合式(3、4速のみ)</td></tr>
<tr><td colspan="3">操向装置形式</td><td></td><td colspan="2">車体屈折＋前輪操舵</td></tr>
<tr><td colspan="3">ブレーキ形式</td><td></td><td colspan="2">内拡式ブレーキ</td></tr>
<tr><td colspan="3">タイヤ</td><td></td><td colspan="2">前 20×8.00−10/後 20×8.00−10</td></tr>
<tr><td rowspan="11">ダンプ装置</td><td colspan="3">ダンプ方式</td><td></td><td colspan="2">一方ダンプ</td></tr>
<tr><td colspan="3">荷台形式</td><td></td><td colspan="2">箱型三方開き</td></tr>
<tr><td rowspan="4">油圧ポンプ</td><td colspan="2">形式</td><td></td><td colspan="2">ギヤポンプ式</td></tr>
<tr><td colspan="2">定格回転速度</td><td>rpm</td><td colspan="2">1500</td></tr>
<tr><td colspan="2">定格吐出量</td><td>ℓ/min</td><td colspan="2">6.7</td></tr>
<tr><td colspan="2">リリーフ設定圧</td><td>MPa(kgf/cm^2)</td><td colspan="2">13.7 (140)</td></tr>
<tr><td colspan="3">シリンダ(内径×行程)</td><td>mm</td><td colspan="2">55×200</td></tr>
<tr><td rowspan="3">性能</td><td colspan="2">最大上昇角度</td><td>度</td><td colspan="2">52</td></tr>
<tr><td colspan="2">上昇時間</td><td>sec</td><td colspan="2">4</td></tr>
<tr><td colspan="2">下降時間</td><td>sec</td><td colspan="2">3</td></tr>
<tr><td colspan="3">油圧作動油量</td><td>ℓ</td><td colspan="2">1.7</td></tr>
</table>

※この仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。

5.2　工具袋明細

No.	部品名	個数	備考
1	取扱説明書(本書)	1	
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1式	

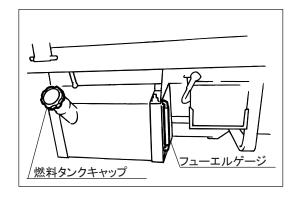
6. 運転と操作

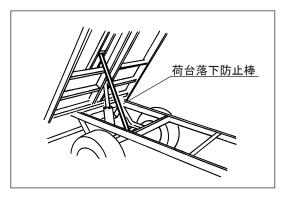
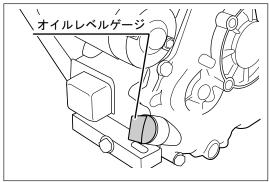
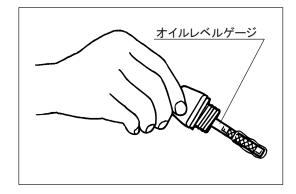
- 本章を読む前に第3章「安全運転・作業のための心得」(4ページ～7ページ)を必ずお読み下さい。
- 運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対にしないでください。

6.1 運転前の準備

6.1.1 燃料の給油

⚠危 険

- 給油の際は火気(タバコの火など)を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。
- 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。

1. フューエルゲージを目視点検し、燃料が不足している場合は、燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

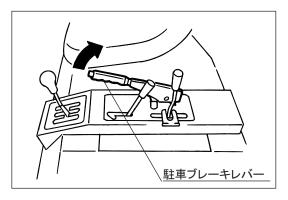
使用燃料:自動車用無鉛ガソリン
燃料タンク容量:16 ℓ

6.1.2　エンジンオイル量の点検と補給

1. エンジンを始動します。(14ページ)
2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。(19ページ)
3. エンジンを停止します。(18ページ)

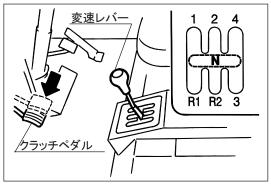
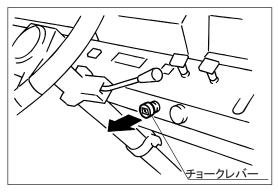
4. オイルレベルゲージを取外します。

5. エンジンオイル量を点検し、規定量にない場合はエンジンオイルを補給します。

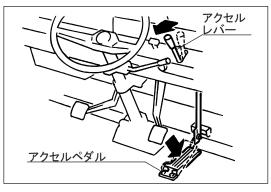
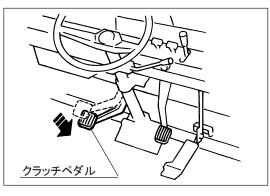
   使用オイル:25ページ

   エンジンオイル量:
   オイルレベルゲージの上の刻み線または「F」と「L」の間
   (「F」以上は入れないでください。)

6.2 始動のしかた

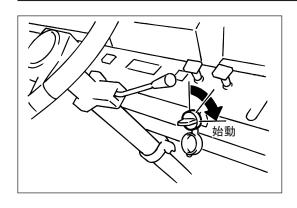
1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。

2. クラッチペダルを踏み込み、変速レバーを「N(ニュートラル)」の位置にします。

3. チョークレバーを引き、「全閉( )」の位置にします。

注 記

エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを引く必要はありません。

4. アクセルペダルを軽く踏み込むか、またはアクセルレバーを軽く引いて「低速」と「高速」の中間位置にします。

5. クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。

注 記

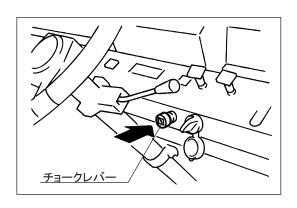
本機は始動安全装置を装備しているため、クラッチペダルを踏み込まないと、エンジンは始動しません。

6. エンジンキーを差し込み、「始動」位置まで回し、エンジンを始動させます。

7. エンジンが始動したら、直ちにエンジンキーから手を離します。

注　記

- 始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを回さないでください。キーを「入」位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにしてください。
- 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したら、しばらく連続運転して、バッテリを充電するようにしてください。

⚠ 注　意

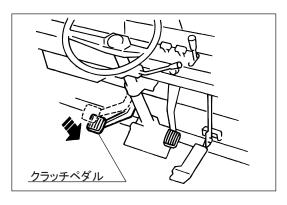
エンジン回転中は、キースイッチを「始動」位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損の原因になります。

8. アクセルレバーを「低速」側に戻します。

9. アクセルペダルから足を離します。

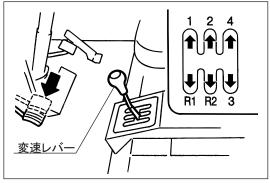
10. クラッチペダルから足を離します。

11. チョークレバーを「全開（ ┃╎┃ ）」の位置に戻し、3～5分間暖気運転をします。

注　記

- 購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。

6.3 運転のしかた

1. 車両の前後、左右の安全を確認します。

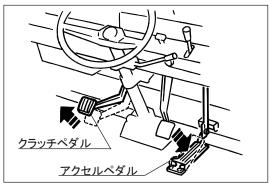
2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。

3. 変速レバーを前進(1速〜4速)または後進(R1速〜R2速)の任意の変速位置に確実に入れます。(各変速位置での走行スピードについては、第5章の「製品仕様」を参照してください。11ページ)

⚠ 危 険

変速(ギヤチェンジ)が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、クラッチペダルを一旦離して再度踏み込み、確実にギヤチェンジを行ってください。

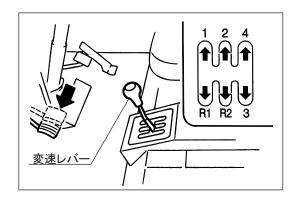
注　記

4速での発進はなるべく避けてください。

4. 駐車ブレーキレバーを解除します。

5. アクセルペダルを軽く踏み込み、エンジン回転数を上げておきます。

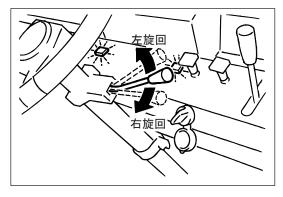
6. クラッチペダルを徐々に上げ(半クラッチ)、車体をゆっくり発進させます。

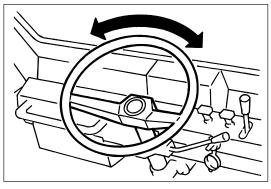
注　記

クラッチペダルを急に上げると、エンストする場合があります。

（変速する場合）

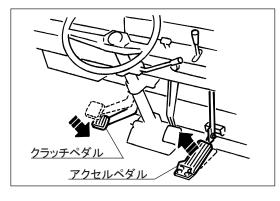
7. 車体を停止させた後、前ページ1～3の操作を行います。（車体の停止のしかたについては、6.4「停止のしかた」を参照してください。18ページ）

⚠ 注　意

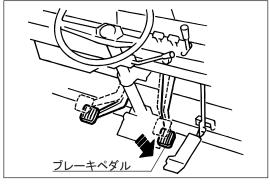
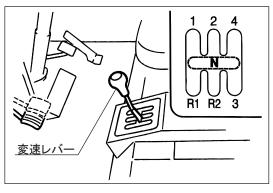
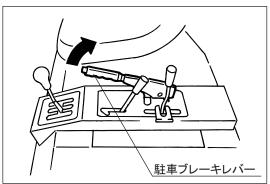
3速から4速または4速から3速への変速を除き、走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。

（旋回する場合）

8. 方向指示灯／ホーンコンビネーションスイッチを旋回したい側（図示参照）に動かします。（旋回する側のパイロットランプが点滅します。）

9. ハンドルを左側または右側に切り、旋回します。

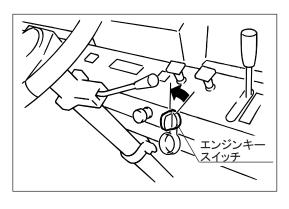
⚠ 危　険

高速走行での急旋回は転倒のおそれがあり、危険です。

6.4 停止のしかた

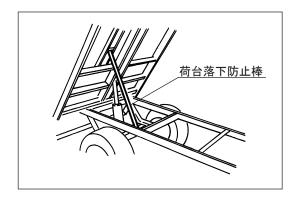
1. アクセルペダルから足を離し、エンジンの回転数を落とし、車体を減速させます。

2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込みます。

3. ブレーキペダルを徐々に踏み込みます。

4. 車体が完全に停止したら、変速レバーを「N（ニュートラル）」の位置にします。

5. 駐車ブレーキを確実にかけます。

6. クラッチペダルから足を離します。

7. ブレーキペダルから足を離します。

8. エンジンキースイッチを「切（OFF）」の位置に回し、キーを抜き取ります。

注　記

キースイッチを「入（ON）」のままにしておくと、バッテリから各回路に電流が流れ続け、バッテリの上がりの原因になります。

6.5　ダンプ操作

危　険

- 荷台を上昇したまま荷台下等の点検を行なう場合は、危険防止のため、本体に備え付けの荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えてください。
- ダンプ操作時は周囲の安全確認を必ず行ってください。

警　告

急傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり、非常に危険ですので、お避けください。やむを得ず坂道でのダンプ操作を行なう場合は、走行部にりん木等を敷き、車体を水平にしてご使用ください。

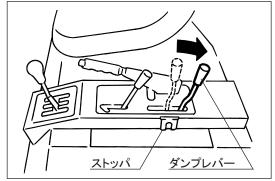
注　意

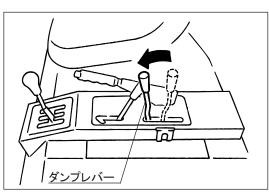
荷物を積載したまま荷台を下降させる場合、車体に衝撃を与えないよう、エンジン回転数を低くして荷台をゆっくり下げてください。

注　意

ダンプ操作は必ずエンジンをかけた状態で行なってください。

（荷台を上昇させる場合）

1. エンジンを始動し、アクセルレバーを「高速」の位置にして、エンジン回転数を上昇させます。
2. ダンプレバーのストッパを取外します。
3. ダンプレバーを「上昇」の位置に徐々に倒します。
4. 荷台が上限まで上がるとリリーフ作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。

（荷台を下降させる場合）

1. ダンプレバーを「下降」の位置に徐々に倒します。
2. 荷台が下限まで下がるとリリーフ作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。
3. ダンプレバーのストッパを取付けます。

6.6 2WD・4WD切換操作

⚠ 警　告

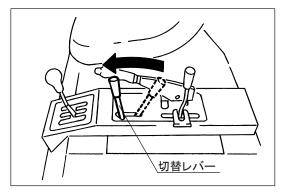
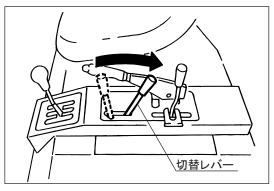
急な下り坂では、4WDを使用してください。2WDではブレーキをかけたとき、後輪が滑り、事故につながるおそれがあります。

注　記

天候および路面状況に応じて、2WD（2輪駆動）と4WD（4輪駆動）の切換操作をしてください。通常走行時は2WDを選択し、下記の状況下では4WDを必要に応じて選択してください。

- 濡れて滑りやすい路面、積雪時、凍結路
- 山道、急坂路、湿った砂地

・2WD→4WDへの切替え

切替レバーを「入」の方へ入れます。
「入」の位置に保持され、走行中でも切替えできます。

・4WD→2WDへの切替え

切替レバーを「切」の方へ戻します。

7. 保守（お手入れ）

7.1 定期点検表

点検や整備を怠ると事故の原因となることがあります。製品の正常な機能を維持し、いつも安全な状態で運転または作業をするために、下表を参考に点検を行ってください。
年次点検は1年に1回、月例点検は1ヶ月に1回、始業点検は作業を開始する前に毎日、点検を行なうようにしてください。

注　記

下表の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については、販売店（当社センター）へ依頼してください。

<table>
<tr><th colspan="3" rowspan="2">項　目</th><th colspan="2" rowspan="2">点　検　内　容</th><th colspan="3">点検時期</th><th rowspan="2">備　考</th></tr>
<tr><th>始業</th><th>月例</th><th>年次</th></tr>
<tr><td rowspan="9">原動機</td><td rowspan="9">本体</td><td>始動性</td><td>・エンジンのかかり具合および異音の有無を調べる。</td><td>始動が容易で、異音がないこと。</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">回転の状態</td><td>・アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数を調べる。
また、回転が円滑に続くか調べる。</td><td>正規の回転数であること。
回転が円滑に続くこと。</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>販売店へ点検を依頼してください。</td></tr>
<tr><td>・エンジンを加速した時、スロットルレバーの引っ掛かり、エンジン停止およびノッキングの有無を調べる。</td><td>引っ掛かり、エンジン停止またはノッキングがないこと。</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">排気の状態</td><td>・エンジンを十分に暖機した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音の異常の有無を調べる。</td><td>排気色および排気音が正常であること。</td><td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>・排気管、マフラ等からのガス漏れの有無を調べる。</td><td>ガス漏れのないこと。</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">エア
クリーナ</td><td>・ケースの亀裂、変形およびふた部、接続管の緩みの有無を調べる。</td><td>ケースの亀裂、変形またはふた、接続管に緩みがないこと。</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>・エレメントの汚れおよび損傷の有無を調べる。</td><td>著しい汚れまたは損傷がないこと。</td><td></td><td>○</td><td>○</td><td>清掃／交換:33ページ</td></tr>
<tr><td>締付け</td><td>・シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットの緩みの有無を調べる。
＊これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合は、この検査を省略してもよい。</td><td>緩みがないこと。</td><td></td><td></td><td>○</td><td></td></tr>
<tr><td>弁隙間</td><td>・弁隙間を調べる。
＊弁隙間の異常による異音がなく、エンジンが円滑に回転している場合は、この検査を省略してもよい。</td><td>正規の弁隙間であること。</td><td></td><td></td><td>○</td><td>販売店へ点検を依頼してください。</td></tr>
</table>

項目			点検内容		点検時期 始業	月例	年次	備考
原動機	本体	圧縮圧力	・圧縮圧力を調べる。 ＊アイドリング時および加速時の回転状態ならびに排気の状態に異常がなければこの検査を省略してもよい。	正規の圧縮圧力であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
		エンジンマウント	・エンジンベースの亀裂および変形の有無を調べる。	亀裂または変形がないこと。	○	○	○	
			・取付けボルトおよびナットの緩みおよび脱落の有無を調べる。	緩みまたは脱落がないこと。	○	○	○	
			・防振ゴムの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
	潤滑装置		・油量および油の汚れを調べる。	油量が適正で著しい汚れがないこと。	○	○	○	点検／交換:26ページ
			・ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等からの油漏れの有無を調べる。	著しい油漏れがないこと。	○	○	○	
	燃料装置		・燃料タンク、ホース、パイプ等からの燃料漏れの有無を調べる。	燃料漏れのないこと。	○	○	○	
			・燃料ホースの損傷および劣化の有無を調べる。	損傷または劣化がないこと。	○	○	○	
			・フューエルフィルタの汚れおよび詰まりの有無を調べる。	著しい汚れまたは詰まりがないこと。		○	○	清掃:35ページ
	電気装置	点火プラグ	・電極の消耗状態、カーボンの堆積の有無を調べる。	消耗がなく、カーボンの堆積がないこと。			○	点検／清掃:34ページ
		バッテリ	・電解液の量が規定の範囲にあるか調べる。	規定範囲にあること。		○	○	点検／補給:31ページ
			・端子部の緩みおよび腐食の有無を調べる。	緩みまたは著しい腐食がないこと。		○	○	
		配線	・接続部の緩みの有無を調べる。	緩みがないこと。		○	○	
			・配線の損傷の有無を調べる。	損傷がないこと。		○	○	
動力伝達装置	クラッチ		・アイドリング状態でクラッチを切り、異音の有無を調べると共にトランスミッションを変速しクラッチの切れ具合を調べる。	異音がなくクラッチが完全に切れること。	○	○	○	調整:36ページ
			・クラッチを徐々に接続して発進の具合を調べる。	滑りがなく接続が円滑であること。	○	○	○	調整:36ページ
			・クラッチペダルの遊びを調べる。	適正な値であること。		○	○	点検:36ページ
	Vベルト		・亀裂、損傷および汚れの有無を調べる。	亀裂、損傷がなく油脂類の付着がないこと。		○	○	点検:35ページ
			・ベルトの張り具合を調べる。	適正な張りであること。			○	点検／調整:36ページ

項目		点検内容		点検時期 始業	点検時期 月例	点検時期 年次	備考
動力伝達装置	トランスミッション(ディファレンシャル含む)	・変速レバーを前進および後進状態にして駆動し、作動状態ならびにギヤ抜け、異音および異常発熱の有無を調べる。	正常に作動し、ギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと。	○	○	○	
		・ケース内の油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検:27、28ページ
		・油の汚れを調べる。	著しい汚れがないこと。		○	○	点検:27、28ページ
		・ケース周辺からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○	
	プロペラシャフト	・クラッチをつないでプロペラシャフトに異音および異常振動がないか調べる。	異音および異常振動がないこと。		○	○	
		・曲がりおよび損傷がないか調べる。	曲がりおよび損傷のないこと。		○	○	
走行装置	タイヤホイール	・タイヤの空気圧および溝の深さを調べる。	基準値内であること。	○	○	○	点検:38ページ
		・タイヤ、ホイールの亀裂、損傷および偏摩耗の有無を調べる。	亀裂、損傷、偏摩耗がないこと。	○	○	○	
		・タイヤの溝に金属片、石、その他の異物のかみ込みがないか調べる。	かみ込みがないこと。	○	○	○	
		・ホイールボルト、ハブナットの緩み、脱落の有無を調べる。	緩み、脱落のないこと。	○	○	○	
		・ホイールベアリング部のガタ、異音および異常発熱の有無を調べる。	ガタ、異音、異常発熱がないこと。		○	○	
制動装置	ブレーキ	・車両を走行させてブレーキの効き具合をブレーキペダルおよび駐車ブレーキレバーを操作して調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整:37ページ
		・無負荷状態で1/5勾配の床面で停止の状態に保持できるかを調べる。	効き具合が適正であること。	○	○	○	調整:37ページ
		・ブレーキペダルの遊びを調べる。	適正値であること。		○	○	調整:37ページ
	ロッド、リンク及びワイヤ類	・ロッド、リンクおよびワイヤ類の損傷ならびに取付け部の緩みの有無を調べる。	損傷または緩みがないこと。	○	○	○	
		・ブレーキを反復作動させ、連結部の緩みおよびガタならびに割ピンの欠損の有無を調べる。	連結部の緩みまたはガタ、割ピンの欠損がないこと。	○	○	○	
車体・荷台	荷台	・ドアの開閉が円滑に行えるかを調べる。	円滑に行えること。	○	○	○	
		・各部の亀裂、変形および摩耗の有無を調べる。	各部の亀裂、変形および摩耗がないこと。	○	○	○	
		・取付けボルトの緩みおよび脱落の有無を調べる。	ボルトの緩み脱落がないこと。	○	○	○	
	車体	・車体およびカバーの亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落の有無を調べる。	亀裂、変形およびボルト、ナットの緩み、脱落のないこと。		○	○	
	荷台落下防止棒	・曲がりおよび変形がないか調べる。	曲がりおよび変形がないこと。		○	○	

項目		点検内容		点検時期			備考
				始業	月例	年次	
油圧装置	パワーパッケージ	・パッケージ本体からの油漏れの有無を調べる。	油漏れがないこと。		○	○	
		・機械を水平な場所に置き、油量を調べる。	油量が適正であること。		○	○	点検／補給：29ページ
		・油の汚れの有無を調べる。	油に著しい汚れがないこと。		○	○	点検／補給：29ページ
		・ブリーザーの目詰まりの有無を調べる。	目詰まりがないこと。			○	
		・ブラケットの取付け状態の適否ならびにボルトおよびナットの緩み、脱落の有無を調べる。	取付け状態が適正で、ボルトおよびナットの緩み、脱落がないこと。		○	○	
		・ホースとの継手部ならびにシール部からの油漏れの有無を調べる。	油漏れのないこと。		○	○	
		・パッケージを作動させ、無負荷および負荷状態における異常振動、異音、異常発熱の有無を調べる。	異常振動、異音、異常発熱がないこと。		○	○	
		・パッケージに負荷をかけて、負荷時の吐出量および吐出圧力を調べる。 ＊前項の検査で異常がなければこの検査は省略してもよい。	基準値内であること。			○	販売店へ点検を依頼してください。
安全装置	前照灯	・ライトスイッチを操作し、正常に点灯するか調べる。	正常に点灯すること。	○	○	○	
		・レンズに破損および水等の浸入がないか調べる。	破損および水等の浸入がないこと。		○	○	
	方向指示灯	・方向指示灯／ホーンコンビネーションスイチを操作し、正常に方向指示灯およびパイロットランプが点滅するか調べる。	正常に点滅すること。	○	○	○	
		・レンズに破損および水等の浸入がないか調べる。	破損および水等の浸入がないこと。		○	○	
	ホーン	・方向指示灯／ホーンコンビネーションスイッチを操作し、正常に鳴るか調べる。	正常に鳴ること。	○	○	○	
	バックミラー	・汚れ、損傷、脱落がないか調べる。	汚れ、損傷、脱落がないこと。	○	○	○	

7.2　給油、給水、給脂、注油一覧表

項　　目	補給(交換)時期	推　奨　品	容量	参照ページ
燃料	随時	自動車用無鉛ガソリン	16 ℓ	12ページ
エンジンオイル	補給:毎日点検し、 不足時に補給 交換: 初回:20時間 2回目以降:50時間毎	ガソリンエンジン車: (API 分類　SD級以上 SAE分類　10W-30)	1.0 ℓ	26ページ
トランスミッション オイル	初回:50時間目 2回目以降:500時間毎	ギヤオイル(API分類　GL4または5 SAE分類　#80)	2.7 ℓ	27ページ
ディファレンシャル (デフ)オイル	初回:50時間目 2回目以降:500時間毎	ギヤオイル(API分類　GL4または5 SAE分類　#80)	0.7 ℓ	28ページ
パワーパッケージオイル	100時間毎に点検し、 不足時に補給	タービン油(ISO:VG32 JIS:#90)	1.6 ℓ	29ページ
グリースニップル	6ヶ月毎 ＊購入後、半年は給脂不要	シャーシグリース	－	30ページ
各摺動部	6ヶ月毎 ＊購入後、半年は給脂不要	ギヤオイル(API分類　GL4または5 SAE分類　#80)	－	31ページ
バッテリ液	毎月点検し、不足時に補給	蒸留水	－	31ページ

7.3　消耗品(交換部品)一覧表

項　　目	交　換　時　期	個　　数	参照ページ
エアクリーナエレメント	50時間運転毎に点検し、必要に 応じて清掃または交換	1	33ページ
フューエルコック (フューエルフィルタ)	200時間運転毎に点検し、必要に 応じて清掃または交換	1	35ページ
Vベルト	不具合があれば交換	2(走行用) 1(油圧用)	交換については販売店 へ依頼してください
ブレーキライニング	不具合があれば交換	ホイール:2 (左右同時に交換) ミッション:1	交換については販売店 へ依頼してください
バッテリ	不具合があれば交換	1	－
タイヤ	不具合があれば交換	4(左右各2)	－
上記以外で点検上交換が必要と 思われる部品	販売店(当社センター)へ お問い合わせください。	－	－

注　記

弊社製品のメンテナンスや部品交換を実施されるときは、必ず当社純正部品をご使用ください。純正部品以外をご使用になりますと、保証が適用されない場合もありますのでご注意ください。

注　記

油圧ホースなどのゴム製品は使わなくても老化する消耗品です。2年ごと、または傷んだときには、新品と交換してください。

7.4 給油

注　記

給油がおろそかになると、回転が円滑に行われないばかりでなく、故障の原因となり機械の寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。

7.4.1 エンジンオイル

点検前の準備

1. エンジンを始動します。（14ページ）

2. 荷台を上昇させ、荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。（19ページ）

3. エンジンを停止します。（18ページ）

点検／補給

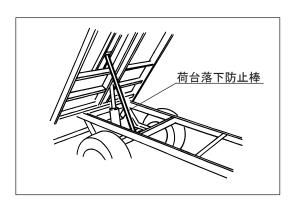
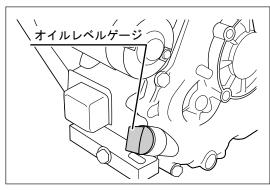
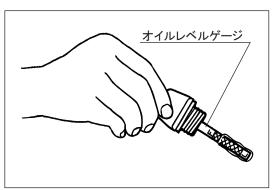
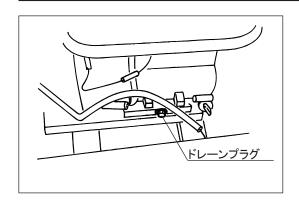
1. オイルレベルゲージを取外します。

2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量でない場合および汚れがひどい場合は、エンジンオイルを補給または交換します。

   使用オイル：25ページ

   エンジンオイル量：
   　オイルレベルゲージの上の刻み線または「F」と「L」の間
   　（「F」以上は入れないでください。）

3. オイルレベルゲージを取付けます。

交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。

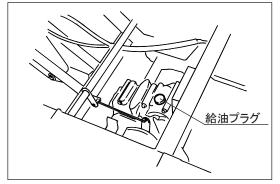
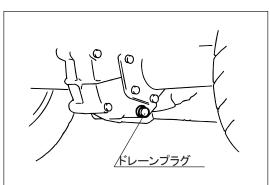
2. オイルドレーンプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。

> **⚠ 注　意**
>
> **オイル高温時には火傷のおそれがあります。**

注　記

廃油は適切な処理をしてください。

3. オイルドレーンプラグを取付けます。

4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。

7.4.2　トランスミッションオイル

点検／補給

1. 荷台を上昇させ、落下防止棒で確実に荷台を支えます。（19ページ）

2. 給油プラグを取外します。

3. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

   使用オイル：25ページ

4. 給油プラグを取付けます。

交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。

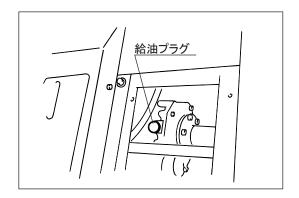
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

> **⚠ 注　意**
>
> **オイル高温時には火傷のおそれがあります。**

注　記

廃油については適切な処理をしてください。

3. ドレーンプラグを取付けます。

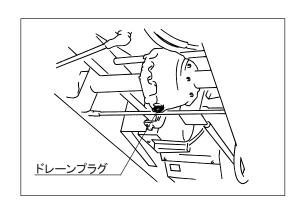
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。

7.4.3　ディファレンシャル（デフ）オイル

点検／補給

1. シートおよびシート取付け用ブラケットを取外します。
2. 給油プラグを取外します。
3. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。

   使用オイル：25ページ

4. 給油プラグを取付けます。

交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

   参考：
   給油プラグを取外すと、オイルが抜取りやすくなります。

> **⚠ 注　意**
>
> **オイル高温時には火傷のおそれがあります。**

注　記

廃油については適切な処理をしてください。

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）

7.4.4 パワーパッケージオイル

点検/補給

注 記

オイルが減るとホースおよびシリンダ内に空気が入り、ダンプの昇降スピードが遅くなったり、ハンドルが重くなるなどの現象が現われますので、100時間毎にオイルの点検を行ってください。

1. 荷台を上昇させます。(19ページ)
2. 荷台落下防止棒で確実に荷台を支えます。
3. 給油プラグ(レベルゲージ付き)を取外します。
4. オイル量を目視点検し、オイルが不足している場合はオイルを補給します。

注 記

荷台上昇時には、オイルレベルはレベルゲージの下端まで下がります。オイル量はオイルレベルが下端以下の場合に補給が必要です。

使用オイル:25ページ

5. 給油プラグを取付けます。
6. 荷台を下降させます。(20ページ)
7. エンジンを再始動し、オイルを循環させます。

注 記

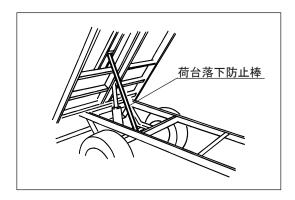
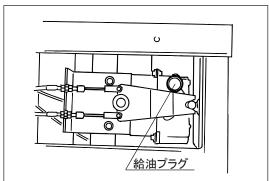
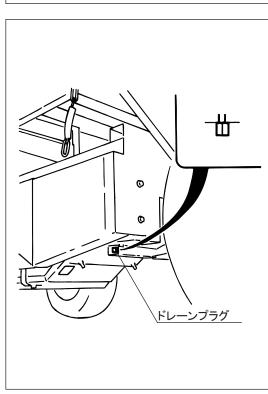
エンジンを始動し、荷台を上昇させると、最初はエアが入っていますのでノックしますが、2〜3回繰り返しますと正常な状態になります。

交換

1. オイルを抜取るための適当な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外します。

注 記

廃油は適切な処理をしてください。

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油キャップを開け、オイルを注入します。

7.5　給脂

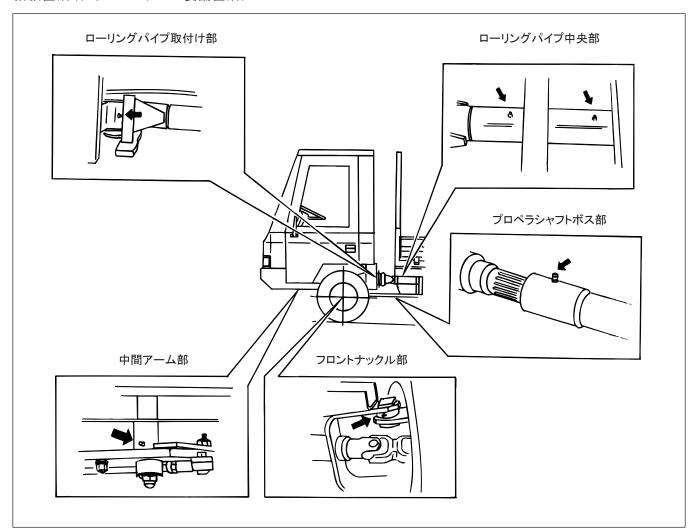
注　記

給脂がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転が円滑に行れないおそれがありますので、常に指定の良質グリースを過不足なく給脂してください。

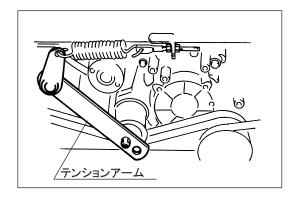
1. 市販の手動式グリースポンプまたはエア式グリースポンプを使用して図示箇所に給脂します。

   使用グリース:25ページ

   参考:
   手動式のグリースポンプを使用の場合は5〜6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなったら、直ちに給脂を中止してください。エア式のグリースポンプを使用の場合は2〜3秒で十分です。

給脂箇所(グリースニップル装備箇所)

7.6 注油

注　記

注油がおろそかになると、焼き付きや錆付きの原因となり、回転や作動が円滑に行れないおそれがありますので、定期的に注油を行ってください。

下記箇所に注油します。

使用オイル:25ページ

(注油箇所)
① テンションアームの軸
② チェンジアームの軸
③ 各リンク部
④ 荷台取付部

7.7 給水

7.7.1 バッテリ液

点検／補給

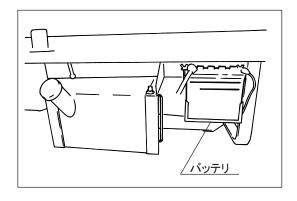
⚠ 危　険

バッテリから発生するガスは引火性があるため、バッテリに火気(煙草の火等)を絶対人近付けないでください。爆発するおそれがあります。

⚠ 注　意

- バッテリ液を身体や服に付けないようにしてください。付着したまま放置すると、バッテリ液(希硫酸)によって、やけどすることがあります。
- バッテリの点検および取外しのときにはエンジンを停止し、メインスイッチを「切」にしてください。

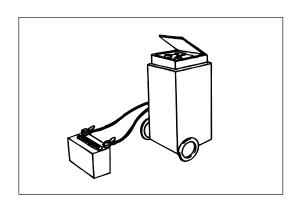
1. バッテリ液の量を目視点検し、必要な場合はバッテリ液を補給します。

バッテリ液量:基準線(上および下)の間
バッテリ液:蒸留水

充電

⚠ 注　意

- バッテリは必ず車体から取外して充電してください。電装品の損傷の他に配線などを傷めることがあります。
- バッテリにコードを接続するときは、＋と－を間違えないようにしてください。一度でも間違えるとヒューズが飛び、バッテリが充電できなくなります。
- バッテリからコードを外すときは－側、取付けるときは＋側から行ってください。逆にすると、工具が当たった場合にショートします。
- バッテリを取外し、再度取付けるときにはバッテリの＋、－のコードを元どおりに配線し、周りに接触しないように締め付けてください。

注　　記

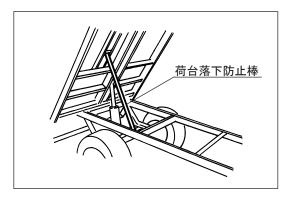
急速充電法は、短時間で放電量の幾分かを補うために大電流で充電する方法です。この方法は応急的処置として行うものです。作業が終わったらなるべく早く、正しく補充電をしておいてください。補充電をしておかないと、バッテリの寿命は極端に短くなります。

1. バッテリを取外します。

2. バッテリの＋と充電器の＋、バッテリの－と充電器の－をそれぞれ接続して充電します。（使用する充電器の「取扱説明書」の指示に従ってください。）

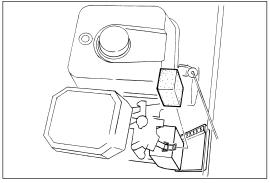
7.8　清掃

7.8.1　エアクリーナエレメント

注　記

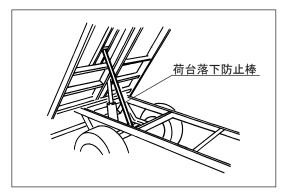
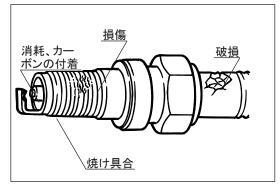
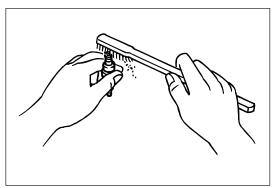
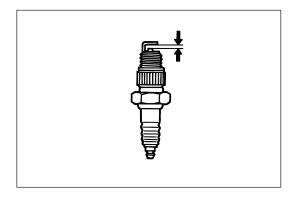
- エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的（50時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。
- エアクリーナエレメントはエンジンの種類によって乾式、半湿式、オイルバス式などのタイプがあります。清掃方法は各タイプで異なりますので、付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、正しく清掃を行ってください。

清掃／交換

1. 荷台を上昇させます。(19ページ)

2. 荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。

3. エンジンを停止します。

4. 付属のスパナを使い、エアクリーナカバーを取外します。

5. エアクリーナエレメントを取外します。

6. 付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。

7.8.2 点火プラグ

点検

1. 荷台を上昇させます。(19ページ)

2. 荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。

3. エンジンを停止します。

点火プラグキャップ
点火プラグ

4. 点火プラグキャップを取外します。

注　記

点火プラグキャップを取外すときは、コードを引っ張らず、必ずキャップを持って取外してください。

5. プラグレンチを使用して点火プラグを取外します。

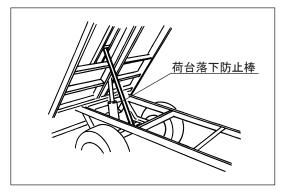
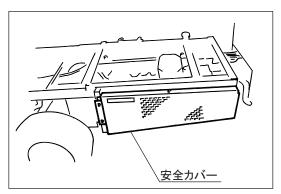
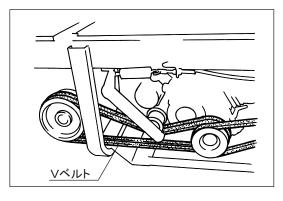
6. 次の点検を行い、不具合があれば清掃または交換します。(点火プラグの仕様:10ページ)
   - 絶縁体破損の有無
   - 電極の消耗状況
   - カーボンの堆積
   - ガスケットの損傷、破損
   - 火花部碍子の焼け具合

清掃

1. ワイヤ・ブラシ、プラグ・クリーナで点火プラグを清掃します。

2. 電極(火花)すき間が下記の値になるように、紙ヤスリで磨いてすき間を調整します。

   標準値:　0.7 mm

3. 点火プラグを取付けます。

7.8.3　フューエルコック（フューエルフィルタ）

清掃

1. 荷台を上昇させます。（19ページ）
2. 荷台落下防止棒で荷台を確実に支えます。
3. エンジンを停止します。
4. フューエルコックを閉じます。
5. ストレーナカップを取外します。
6. ストレーナカップの底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）を除去します。
7. ネットを新しいガソリンで洗浄します。

7.9　調整

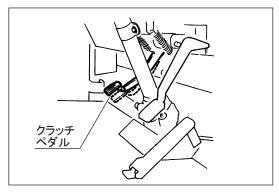
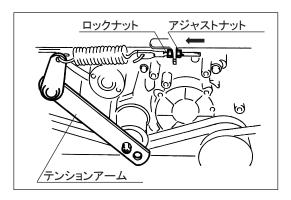
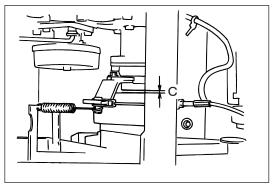
7.9.1　Vベルト

点検

1. 安全カバーを取外します

2. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。

交換

販売店へ依頼してください。

7.9.2　クラッチ

クラッチペダルの遊び

クラッチペダルは、クラッチ「入」（踏まない）の状態でペダルの先端での遊びが約30〜40mm程度にセットされていますが、長期の使用で遊びが少なくなってきたら、クラッチワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットで調整してください。

B A
ロックナット アジャストナット

・クラッチペダルの遊びが少ない場合
　アジャストナットをAの方向へ

・クラッチペダルの遊びが多い場合
　アジャストナットをBの方向へ

注　記

遊びを設けすぎるとクラッチの切れの不良の原因となります。

Vベルトの滑り

ロックナットを緩めた後、アジャストナットを矢印の方向へ締めて、テンションアームにてベルトを張ってください。

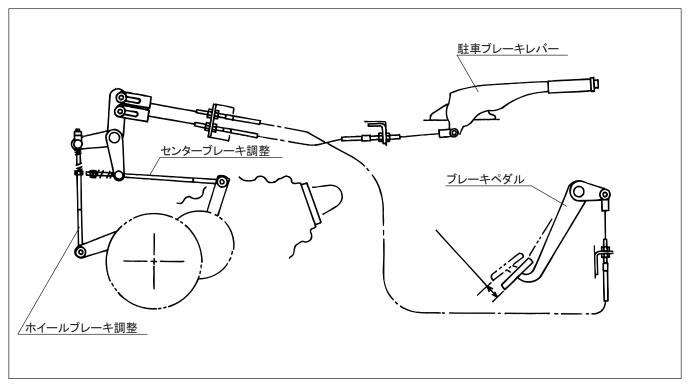
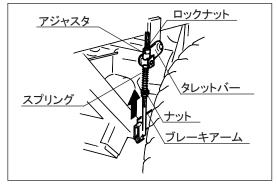
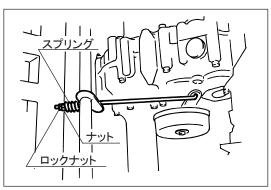
クラッチの滑り

クラッチ板が摩耗して左図のすきまCがなくなり、クラッチが滑る場合は、クラッチ板の交換が必要です。（販売店へ依頼してください。）

7.9.3　ブレーキ

注　記

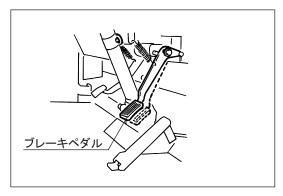
最も重要な調整にブレーキ調整があります。
少しでも甘くなったり、片効きするような場合は直ちに下記の調整を行い、常に安全を心がけるようにしてください。

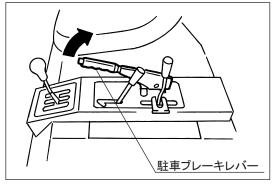
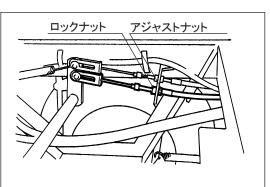
ブレーキ経路図

ホイールブレーキの調整

ブレーキライニングが摩耗した場合、特にこの調整が必要です。

1. 駐車ブレーキを解除させます。
2. ロックナットを緩め、ブレーキアームを上方へ押します。
3. アジャスタとタレットレバーの間隔が約5mmになるよう調整します。
4. スプリングが約10mm程度縮むようにナットで締め込みます。

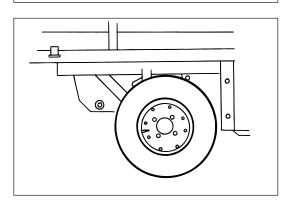
センターブレーキの調整

駐車ブレーキをいっぱいに引いた状態でスプリングが約3mm程度縮むようにナットで締め込み、ロックナットで固定します。

ブレーキペダルの遊び

ホイールブレーキおよびセンターブレーキの調整後、ペダルを軽く押したとき遊びが先端で0～10mmになるよう、ブレーキワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットにて調整してください。

駐車ブレーキの調整

駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキレバーのロックがおよそ4～6ノッチで止まるよう、ブレーキワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットにて調整してください。

注　記

ブレーキを調整後に、駐車ブレーキを解除して、変速を「N」の状態で、車体を押して動くことを確認してください。

7.9.4　タイヤの空気圧

1. 前輪および後輪のタイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。

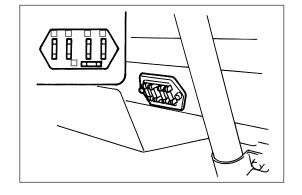
	タイヤ	空気圧（kg/cm²）
前　輪	20×8.00－10（4PR）	1.6
後　輪	20×8.00－10（4PR）	1.6

7.10　交換

7.10.1　ヒューズ

注　記

ヒューズの交換の際は、必ず同じ負荷容量のものと交換してください。

① メイン（20A）
② ライトホーン（5A）
③ フラッシャ（5A）
④ 燃料ポンプ・ワイパ（15A）
⑤ 予備（20A）

7.11　使用後のお手入れ

（通常時の使用後のお手入れ）

- 使用後は車体に付着した泥や異物を取除いてください。エンジンや操作盤および各種給油口の水洗いは水の浸入や錆付きの原因になるため避けてください。

- 屋外に放置するときは、防水シート等を掛けておいてください。

（寒冷期の使用後のお手入れ）

- 使用後必ず車体に付着した泥や異物を取除いて、コンクリートか固い乾燥した地面上または角材の上に駐車してください。付着物は凍結して故障の原因となります。

- 屋外に放置するときは、防水シート等を掛けておいてください。

注　記

凍結して運転不能となった場合は無理に動かそうとせずに、凍結箇所を水・お湯等で解かすか、凍結が解けるまで待ってください。

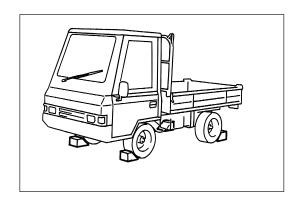
8. 格納（長期保管）

長期保管する場合は、次の使用時に備えて適切な処置をしておく必要があります。長期保管をする際は、使用後のお手入れ（39ページ）をした後、以下の指示に従ってください。

⚠ 危 険

火気のある場所および高温な場所に本機およびバッテリ、燃料等を格納しないでください。火災の原因となり危険です。

注 記

湿気やほこりの多い場所での本機の格納は避け、格納時にはエンジンが冷えてから、防水シートを本機にかけておいてください。

8.1 本機（車両）

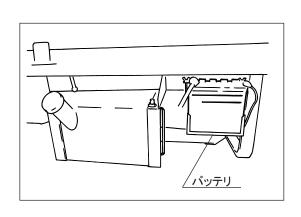
1. 外面を油のしみた布で清掃し、回転摺動部は注油します。
2. 駐車ブレーキレバーを引かずに、輪止めをします。
3. エンジンキーを抜きます。

8.2 バッテリ

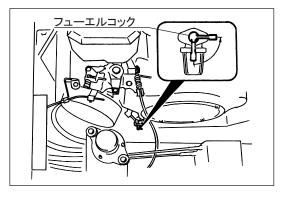
⚠ 注 意

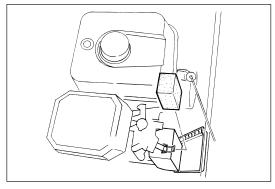
バッテリ線を外す場合はマイナス（ー）を先にプラス（＋）を後で外し、接続する場合はプラス（＋）を先にマイナス（ー）を後で接続します。

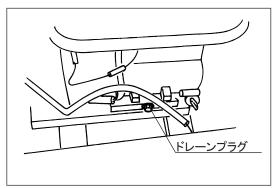
1. 本体（車両）からバッテリを取外します。
2. バッテリ液の量を確認し、必要な場合は補充します。（31ページ）
3. 低温で乾燥した場所に保管します。

参考：
バッテリは使用しなくとも約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電すると、バッテリを長持ちさせることができます。

8.3 エンジン

注　記

- 気化器内へ燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期保管する場合は気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。また長期間放置した燃料はなるべく使用しないでください。
- エンジン長期保管の詳細については、付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。

8.3.1 フューエルコック

1. フューエルコックを「閉」の位置にして燃料の供給を停止します。

8.3.2 エアクリーナエレメントの清掃

1. エアクリーナエレメントを清掃します。(33ページ)

8.3.3 エンジンオイルの交換

1. エンジンオイルを交換します。(26ページ)

9.　不具合発生時の処置

- 不具合と考えられる現象が起きた場合は、本機の使用を停止し、下記の「不具合診断表」を参照して適切な処置をしてください。「不具合診断表」に掲載されていない不具合が発生した場合や適切な処置を行っても不具合が解消されない場合は、販売店または当社各センターまで連絡してください。

- 処置については、専門的な整備知識を必要とするものもありますので、整備が難しいものについては、販売店または当社センターに依頼してください。

9.1　不具合診断表

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処　　置
エンジン関連	エンジンがかからない またはかかりにくい	・燃料不足	→補給する（12ページ）
		・燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する
		・バッテリの容量不足（セルモータの起動不良）	→バッテリ液を補給する（31ページ） →バッテリを充電する（販売店へ依頼してください） →バッテリを交換する
		・ヒューズ切れ	→交換する（39ページ）
		・電気配線の接触不良または断線	→修理する（販売店へ依頼してください）
		・エンジンオイルの不足または品質不良	→補給または交換する（26ページ）
		・点火プラグの汚れまたは火花の飛び不足による着火不良	→清掃または交換する（34ページ）
		・その他（上記以外）	→本書の第6章6.2項「始動のしかた」の手順に従って再度始動を試み、始動不可能の場合は販売店へ修理を依頼してください。
	すぐにエンストする	・燃料不足	→補給する（12ページ）
		・チョークの戻し忘れ	→チョークを戻す
	エンジンが突然停止した	・燃料切れ	→補給する（12ページ）
		・エンジンオイル不足またはおいる劣化による焼き付き	→点検および補給する（26ページ）

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処置
エンジン関連	アイドリング不良 （エンジン回転にムラがある）	——	→販売店へお問い合わせください
	出力または加速不足	・Vベルトの緩み ・アクセルの調整不良 ・過積載	→調整する →販売店へお問い合わせください →積み荷を減らす
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする	・エンジンマウントの劣化 ・その他	→交換する（販売店へ依頼してください） →販売店へお問い合わせください
	エンジンオイルの消費が早い	・エンジンオイルの漏れ	→点検および修理する
	エンジンのオーバヒート	・エンジンオイルの不足	→補給する（26ページ）
	燃料の消費が早い	・燃料系統からの燃料漏れ ・エアクリーナの目詰まり	→点検および修理する（販売店へ依頼してください） →清掃または交換する（33ページ）
	黒煙が多量に出る （排気状態の不良）	・圧縮不良 ・エアクリーナの目詰まり ・チョークの戻し忘れ	→点検および修理する（販売店へ依頼してください） →清掃または交換する（33ページ） →チョークを戻す
	白煙または青煙が出る （排気状態の不良）	・エンジンオイルが入り過ぎている ・燃料不良 ・シリンダ、ピストンリングの摩耗	→点検後、オイル量を調整する（26ページ） →燃料を交換する →点検および修理する（販売店へ依頼してください）
	アクセルレバーまたはペダルが引っ掛かる	・アクセルワイヤの折れ、錆付き	→交換する（販売店へ依頼してください）

9　不具合発生時の処置

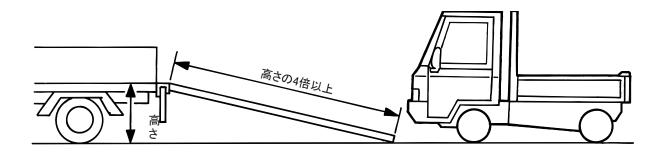
発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処　　置
動力伝達装置関連	クラッチをつないでも車が動かない	・確実に変速(シフト)していない ・ブレーキが効いている ・Vベルトが外れている、緩みすぎている ・トランスミッションの故障	→確実に変速(シフト)する →ブレーキの解除 →Vベルトをかける、または調整(販売店に依頼してください) →販売店に連絡してください
	クラッチの切れが悪い	・調整不良	→調整する(36ページ)
	クラッチをつなぐとVベルトが滑る	・調整不良	→調整する(36ページ)
	クラッチペダルの遊びが過大または過小	・調整不良	→調整する(36ページ)
	トランスミッション付近から異音がする	・ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	→販売店へお問い合わせください
	変速できない	・クラッチの調整不良 ・ギヤの損傷、ベアリングの摩耗 ・確実に変速(シフト)していない	→調整する(36ページ) →販売店へお問い合わせください
	ギヤ抜けする	・ギヤの摩耗 ・過積載 ・調整ナットの緩み	→確実に変速(シフト)する →販売店へお問い合わせください →積み荷を減らす
制動装置関連	効きが悪いまたは片効きする	・ブレーキライニングの摩耗 ・ブレーキドラム内にオイルが浸入 ・ブレーキドラム内に水が浸入 ・タイヤの摩耗 ・過積載	→調整する(37ページ) →ライニングを交換する(販売店へ依頼してください) →オイルシールを交換する(販売店へ依頼してください) →何回かブレーキをかけて中の水を乾かす →タイヤを交換する →積み荷を減らす

発生箇所	不具合現象	考えられる原因	処　　置
制動装置関連	ブレーキペダルの遊びが過大	・ 調整不良	→調整する（37ページ）
	駐車ブレーキの効きが悪い	・ 調整不良	→調整する（38ページ）
荷台関連	後ドアの開閉不良	・ ドアロックの調整不良	→ターンバックルを調整する（下記参照）
	ドアロック金具 ロックナット ロッドA ターンバックル ロッドB		
ダンプ装置関連	ダンプ装置が作動しないまたは作動不良	・ パワーパッケージのオイル不足または劣化 ・ 油圧系統からのオイル漏れ ・ ベルトの張り不足	→給油または交換する（29ページ） →点検および修理 →調整する（販売店へ依頼してください）
車体関連	車体の異常振動	・ タイヤ空気圧 ・ タイヤ取り付けボルトの緩み ・ ホイールベアリングの破損 ・ タイヤの亀裂	→タイヤの空気圧を調整する（38ページ） →ボルトを締める →交換する（販売店へ依頼してください） →交換する（販売店へ依頼してください）
安全装置関連	ライト、ランプの点灯不良	・ 配線不良 ・ 球切れ ・ ヒューズ切れ	→接続する →交換する →交換する（39ページ）

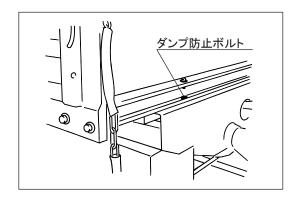
10. 本機の移送および本機での移送

10.1 本機の移送

本製品を自動車へ積降ろしする際は、下記の手順および注意事項を遵守してください。

1. アユミ板は、十分な強度（機械重量および運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤの2倍以上）、長さ（高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用し、本機の重量でアユミ板が傾いたりしない場所を選んでください。

2. アユミ板のフックは、荷台に段差のないように、また、ずれないように確実に掛けてください。

⚠危 険

- 作業中は本機およびアユミ板の周辺には、人を近づけないようにしてください。
- 変速ギヤを前・後進とも1速にし、4駆レバーを「入」にして、ゆっくりと昇り降りしてください。
- アユミ板上での方向変換はいったん、地上に降りて行ってください。転落の危険があります。

10.2 本機での移送

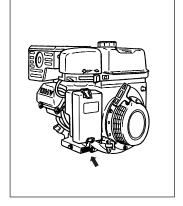
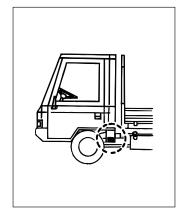
注 記

本機に小型運搬車等を積み込んで移送する場合は、ダンプ防止ボルトを取付け、荷台を必ず固定してから作業をしてください。

11. 小型特殊自動車登録申請の手引き

この車の所有者となった方は、市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。(詳細な手続きは市町村役場窓口でお尋ねください)

＊市町村役場の登録申請書記載事項

搭載エンジン / 項　目	三菱GB290
種別用途	小型特殊自動車
車名	チクスイELL802M
型式	チクスイELL802M
年式	年式は購入された年を記入してください。
原動機番号	＊エンジンの打刻を見て記入してください。
原動機総排気量	296 cc
車台番号	＊車台番号については、車体の左フェンダ部に打刻してあります。
型式認定番号	申請中
形状	ダンパ(ダンプ仕様車)

原　動　機　番　号

車　台　番　号

※ 自賠責保険は加入が義務づけられています。
自動車損害賠償保障法によってすべての自動車は自賠責保険に加入しないと運行できない事になっていますので、必ず加入して頂く様お願いします。